

農業技術センター普及指導部作物関係情報 (その2)

タイトル：水稲の生育状況（7月5日現在）について

発信日：平成23年 7月 6日

内 容

- ・気温は6月5半旬以降、平年より高めで日照は平年並みに推移した。水稲の生育は、初期の天候によって若干遅れたものの、現在は平年並みに推移している。
- ・草丈は平年並～やや高く、茎数は平年並～やや少ない、葉色は平年並みの傾向である。
- ・高温・強風等によって、葉の先端が枯れているものも見られるが、生育には影響ない程度である。
- ・今後、このまま気温が高く推移すると、出穂期は平年よりも早まると予想される。
- ・追肥（穂肥）は高温傾向が予想されるので、積極的に施用した方がよい。

留意点

今後の水稲の技術指導において、次の点に留意する。

- ① 7月1日の1ヶ月予報では、気温は平年よりやや高めで、降水量平年並み、日照時間は平年並み～やや多い予想である。
 - ② 7月5日現在の生育状況と今後の気温から、出穂期は平年よりやや早くなるものと予測されるので、中干しや追肥（穂肥）時期は、生育に応じて対応する。
- ◎中干しは出穂期の約1ヶ月前に5日間程度行う。
- ◎追肥（穂肥）は、気温が高めの予報なので平年よりやや多めとする。
- ◆平年では「キヌヒカリ」は、出穂期の20日～15日前頃、窒素成分2kg（10a当たりNK化成13kg程度）。
 - ◆平年では「さとじまん」は、出穂期の15日～10日前頃、窒素成分2～3kg（10a当たりNK化成13～20kg程度）。

*農業技術センター（平塚市）での平年値（目安）

作期	品種名	平年出穂期	中干し時期	追肥適期(予測)
5月下旬植	キヌヒカリ	8月 6日	7月10日頃	7月17日
	さとじまん	8月14日	7月18日頃	7月30日
6月上旬植	キヌヒカリ	8月11日	7月15日頃	7月22日
	さとじまん	8月19日	7月23日頃	8月 4日
6月中旬植	キヌヒカリ	8月16日	7月19日頃	7月27日
	さとじまん	8月23日	7月26日頃	8月 9日

*中干しは、好天の場合は3～5日程度と短く、降雨が多い場合は5～7日程度と長くする。大きな切れ目ができる程度に強く中干しを行うと、稲の根を切断し、後半の生育を抑制するので控える。

- ③雑草が多く残っている場合、バサグラン粒剤・液剤を使用するが、この除草剤は水を落として（落水～極浅水状態）雑草に除草剤が直接かかるように処理し、処理後3日間落水状態を保った後、入水する。
また、ノビエが多い場合、ヒエクリーン1キロ粒剤、クリンチャーEWが有効である。
- ④害虫の発生については、発生情報に注意し、発生状況によって防除を検討する。
農業技術センター病害虫防除部のテレホンサービス（0463－58－6612）やホームページを活用する。
なお、イネツトムシ（イモジセリの幼虫）のふ化最盛日予測（県平均）が7月26日となっている。
*イネツトムシの粒剤による防除（散布）適期は、ふ化最盛期前3～5日程度が防除適期に当たる。（各地区ごとの予測はHP参照）

参考情報・文献

平成23年気象庁横浜气象台気象表並びに野菜作物研究部・現地
水稻生育診断調査結果

連絡先

農業技術センター普及指導部 作物加工課
平塚市上吉沢1617
電話番号：0463－58－0333（内）381～384
FAX番号：0463－58－4254
Eメール：noken.fukyu@pref.kanagawa.jp